

1. 開催日時

平成29年12月18日（月）14:00～15:00

2. 開催場所

独立行政法人農業者年金基金 特別会議室

3. 出席委員

・浅野幸弘 委員長 ・明田雅昭 委員 ・菅原晴樹 委員 ・枇杷高志 委員

4. 議事

- ・モンテカルロシミュレーションによるALM分析等について
- ・加入者に対する説明のポイント（外国債券の為替ヘッジについて）
- ・「年金給付等準備金運用の基本方針」の改定のポイントについて 等

5. 概要

次期政策アセットミックスの策定に向けて、候補となるアセットミックスのリスク等についてモンテカルロシミュレーションによるALM分析等を行い、その結果について事務局より説明を行った。

具体的には、前回検討した効率的フロンティアから選択した3つのケースについて、一定の条件を置きシミュレーションを行うとともに、極端な市場下落時の影響についてストレステストを行った。その結果、外国債券に為替ヘッジを付すことでリスク分散効果を向上させることが確認された。またアンケート結果等を踏まえた上で、加入者の意向にも配慮が必要であることも確認した。

加入者に対する説明のポイントとして、分散投資の意義と外国債券に為替ヘッジを付す理由について、事務局より説明を行い、了承された。

「年金給付等準備金運用の基本方針」の改定のポイントについて、資金運用委員会等の議論を踏まえた修正がなされていることから了承された。国内債券投資の中で短期資産を保有するのであれば届け出は不要ではないかとの意見があり、事務局より、「基本方針」に記載のない短期資産を運用戦略の結果保有することについて、農林水産省へ届け出た上で行うという整理とした旨説明を行った。

なお、今回の議事についての委員からの主な意見等は以下のとおり。

<主な意見等>

- 外国債券に為替ヘッジを付すことでリスクが低下しているため、その分、株式への配分を増やしてもいいのではないか。また、加入者への説明においては、株式について一時的にマイナスとなることもあるが、平均的には高いリターンが期待できることも加えたほうがいいのではないか。
- 加入者に行ったアンケート調査では大半が安全性を重視していることから、次期政策アセットミックスの策定において、リスク・リターンの考え方についてはその意向にも配慮があていいいのではないかと。
- 3つのケースに大きな違いが無く、その中で選択をするのであれば慎重になるべきかもしれないが、加入者の利益に繋がることを考えると、ある程度必要なリターンを得るという観点から、少し積極的な方向で考えることも検討すべきではないかと。
- 金利低下の影響を始めとする経済環境の変化等から、前回の政策アセットミックス策定時よりも、期待リターンの水準が低下するのはいやむを得ず、リスクの水準について慎重に選択すべきではないかと。
- 年金給付等準備金運用の基本方針の改定について、これまでの委員会での検討や議論を踏まえており、また実状に合わせた文章に修正されているのではないかと。